

兵庫県明石市

■調査項目

トリプルスリー（地方創生）の取組について

・調査対応者

政策部政策室 岡田 武 課長，撰田 崇 係長  
議会事務局次長兼総務課長 和気 小百合

・調査期日

平成 28 年 5 月 18 日（水）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 0 0 分

・明石市の概要

人 口：2 9 3，5 0 0 人  
世帯数：1 2 8，3 9 3 世帯

・調査目的

関西圏で唯一、人口がV字型増加に転じている明石市の取組を調査。

明石市が今後5年で目指すトリプルスリー（地方創生）の内容を調査。

世代を超えて「住みたい 住み続けたいまち」へ

・調査内容

【明石市からの説明】

関西で唯一の人口V字型回復を果たしている成果を市内外に発信し、

今後5年の目標として掲げた創生総合戦略で「明石のトリプルスリー」を

目指し、関西初となる「保育料第2子以降完全無料化」や兵庫県内初と

なる「待機児童解消・保育所枠1000人増」など重点政策等を予算化した。

明石市が目指す「トリプルスリー」とは、

① 人口30万人 ②赤ちゃん出生数3,000人 ③本の貸出年300万冊

誰もが住み続けたいまちへ、というコンセプトの基、通学、通勤に適した  
市の条件を生かし、ベッドタウンとして注目を浴びている。

H22年～H24年の3年間は人口減少していたが、H25年以降、市長の強い

リーダーシップの下で数々の重点政策事業を展開し、通勤圏内の、20代～  
30代の子育て世代世帯の転入が増加している。

無理やりの政策で移住を図るのではなく「選んで頂く」取組をしている、  
という趣旨で説明を頂きます。

## 【質疑応答】

質問 : 人口増加につながった要因 (つながった経緯)

答え : ベースとなる取組は、H23年からの第5次長期総合計画の中で今年が中間点となるが、メインとしているのは、子どもを核にした町作り、未来につながる町作りをコンセプトとした。  
作成当初は29万人であったが、推計では減少予定が増加。

質問 : 人口減少時代と増加に転じたことによる市民の反応と町の雰囲気

答え : 市外へ広報し転入キャンペーンにも取組んだが他市から批判の声も好意的な声もあったが今は社会増よりも自然増に力点を置く。  
好意的な声もあったが厳しい

質問 : 地方創生に繋がるまちづくり像

答え : 人口減少への歯止めと地域力の向上が求められているが、大都市の大阪、姫路、神戸の近隣に挟まれている利便性を生かし住んで通勤して頂く、その結果として若年子育て世代の増加に転じている。

質問 : トリプルスリーの取組と達成見込み

答え : 赤ちゃん出生3,000名に対して現在は2,570名。

本の街として駅に複合ビル34階建てを建設中、図書館2館と併せて蔵書が100万冊 (市民図書館、子ども図書館、大型書店含)

年間300万冊の貸出を目指す、現在は220万冊。(学校と移動含)

順調に推移をしているが読書週間を身につけるハードルも高い。

(呉市の図書館蔵書734千冊、貸出冊数930千冊/年)

## 【呉市での展開の可能性】

本市に於いては、15万人以上の都市で高齢化率が全国で一番であることを視察の折にも紹介をさせて頂いており、高齢者が安心して暮らせる街と、PRをさせて頂いております。明石市は東西に長く呉市に比べ7分の1というコンパクトな市ではありますが呉市も交通の利便性もあり通勤に適しており、子育て世代が最も必要とする政策を講じることにより、ベッドタウンの要素を備えた本市も、明石市が取組む重点政策事業等は子育て世代が求める必要な政策であり、日本が抱える社会保障の問題等考えていく上では、本市においてもこ子育て世代や、労働生産人口の増に繋がる政策は大変重要であると考えます。

大阪府池田市

■ 調査項目

「子供が安心して学べる学校づくりの取り組み」について

・ 調査対応者

大阪教育大学附属池田小学校 副校長 眞田 巧  
議会事務局庶務課主事

・ 調査期日

平成28年5月19日（木）午前10時～午前11時30分

・ 池田市の概要

人口：101,575人  
世帯数：45,162世帯

・ 調査目的

- ① 子供が安心して学べるための取り組み
  - ② セーフティプロモーション（SPS）の概要の研修
  - ③ 導入に至るまでのプロセスの研修
- 
- 
- 
- 
- 

・ 調査内容

【学校からの説明】

「はじめに」教頭先生から話があり、不審者対応訓練のDVDを拝見させていただきました。

「防犯設備」

- ① 事件以来、各教室又トイレにも防犯ブザーを設置している、設置数320
- ② 監視カメラの設置 モニターは事務所と職員室に設置\_\_\_\_\_

「安全教育」

- ① 自他の命をたいせつにしようとする心を育む
  - ② 加害者を作らない
- 

「安全管理」

- ① 設備に頼らない安全管理の推進
- ② 「うちは大丈夫」でわなく「～かもしれない」といゆう心構え
- ③ 学校だけでは完結しない、地域、関係機関に積極的に関係を作り進める



---

【呉市での展開の可能性】

---

今回の視察を終えて、感じることは、全国どこでも起こりうる事件だと、それを考えると、呉市の学校の防犯・学校安全は非常に弱さを感じております。まず、SPSも、できることからモデル校を作り、早くスタートをしたいと感じました。とても勉強になり、参考になりました。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## 兵庫県川西市

### ■調査項目

#### シティープロモーションの取り組みについて

#### ・調査対応者

総合政策部かわにし魅力推進室 室長 畑中 久代氏  
主幹 岡本 敬子氏  
議会事務局 下村 様

#### ・調査期日

平成28年5月19日（木）午後1時～午後2時30分

#### ・川西市の概要

人口：159,697人  
世帯数：67,715世帯

#### ・調査目的

呉市と同様な人口減少、高齢・少子化に対応すべく定住・交流人口の増加を目指す川西市のシティープロモーションについて調査する。

#### ・調査内容

##### 【川西市からの説明】

- ・兵庫県最東部に位置し、市制施工62年となる。都市に近接し大阪まで約20分と神戸・大阪のベッドタウン（住宅都市）として発展して来た歴史がある。
  - ・経過報告に於いて、H25年度にスタートした第5次川西市総合計画の中で専守重点プロジェクトの一つに位置づけられ、専任所管（魅力創造課）が設置される。
  - ・魅力創造課が設置された背景には人口減少・高齢・少子化が進んで来た事への対応策の意味合いも含まれていた。
  - ・大きな目的としてシティープロモーションに取り組むことで、定住人口・交流人口の増加を目指すのが狙いであった。
  - ・組織体制として担当所管がH25年度に行政経営（企画）と魅力創造課の合同で正職員3名でのスタート、H27年度に川西魅力発信室（広報課）と魅力創造課で正職員3名・嘱託1名。H28年度には、かわにし魅力推進室（広報課と統合）し、正職員8名で推進している。
  - ・本年度で4年目になるが、25年度当初はこれからの方向性を定める為に、（シティープロモーション戦略ビジョンの策定）を行う。
- 業務委託とし、業者選択方法はプロポーザル方式による随意契約で契約金額420万円、25年度決算経費として5,584千円

- ・戦略ビジョン策定に当たっての組織体制として（25年度設置）

<庁内組織>

シティープロモーション戦略会議 構成員21名

議長に市長、副議長に両副市長、委員には庁内幹部（部長）職員を配置  
会議（協議事項）25年度5回開催

戦略会議の下部組織 プロモーション戦略部会 構成員26名

部会長に総合政策部長 委員は政策担当室長（12名）関連所管の長（13）  
会議（協議事項）25年度4回開催

シティープロモーション・ワーキンググループ「かわにし盛り上げ隊」

構成員（公募11名）

総務、市民生活、健康福祉、こども家庭、上下水道局、川西病院の6部局  
若手職員の自由で斬新な視点からシティープロモーション推進方策を検討す  
る為に設置。役割として市内外にアピール出来る市の魅力を若手職員の視点  
から洗い出し、市の魅力を効果的に発信する方法を検討する。

<庁外組織>

シティープロモーション戦略検討委員会（学識者等による委員会）委員16名  
学識者4名 事業者9名 市民団体等3名

本市のシティープロモーションについて意見を聴取。

意見聴取内容25年度は3回開催

・また、パワーポイントによるシティープロモーション戦略概要の説明を受け、①川西市の現状 ②市の魅力資源 ③戦略視点 ④戦略手法を課題としてそれぞれにシティープロモーションの目的と目標を明確化することで、まちの魅力を発掘・創出し、市を「都市ブランド」として市内外に効果的に発信して行く事を検討。

・H26年度の取り組みとして市制施工60周年事業×シティープロモーションを掛け合わせる。庁内会議、検討委員会、各種アンケート結果から得られた意見やアイデアをもとに、60周年に特化した事業の提案を所管課と団体の意向調査を踏まえ、戦略会議で決定、26年度予算へ反映。

・シティープロモーション専用webサイトの開設でターゲットを20代～30代の女性に設定し、市公式Hpのサーバー利用（費用約130万円）し軽いタッチでの民間店舗等紹介をしたり、市民等が企画・実施する川西魅力発信プロジェクトチームの結成で若い世代が中心と成りボランティアで支えて頂くなど、市民の方と一緒に立ち上げる。その他4つのプロジェクトチームがそれぞれの視点から川西市を盛り上げて行く企画を推進して頂く。

27年度の取り組みとしては、統計データ・アンケート結果から川西市の特長をターゲットの20～30代の女性視点からアピールを行い、観光・住まい・結婚を関連させたシティープロモーションを認知度の高い媒体を活用し展開する。

- ① 「じゃらん」への掲出 2ページの企画広告掲載
- ② 「川西じゃらん」（冊子）発行A4版フルカラー8ページで一万部発行
- ③ 「SUUMO」（不動産情報）バナー広告・特設ページ掲載
- ④ YAHOO!×SUUMOターゲットニングバナーの実施
- ⑤ ゼクシィ来訪者へのPR 挙式前後のカップルに市の情報を配信
- ⑥ 「ご当地フェイスブック」で川西ファンの方から口コミ発信して頂く
- ⑦ 大阪中心部（梅田駅周辺）でのデジタルサイネージやPRポスターを活用したシティープロモーションを実施  
デジタルサイネージ・・・屋外や店頭などに設置された液晶ディスプレイなどの映像表示装置。

#### 事業効果の検証

早急には結果が出ないのが現状であり、頭を悩ましている所である。

総合計画で設置している指標は、端的に言えば、生産人口を増やして行く事と、ふるさと納税寄付件数を上げて行く事にある。

また、どれだけ川西市へ定住人口・交流人口特に若い世代が移り住んだのか、明確な数字は出てはいないが、各事業に対する実施効果は客観的に把握できるものは、押さえていける方向で考えているところである。

#### 【質疑応答】

- ・Q：資料の中にチーム別活動内容が記載されているが、その中に「かわにしホームパーティー」プロジェクトが企画をした「親子で里山ピクニック」には、どれくらいの方が参加され思い出作りをされたのか？

A：20名の方が参加された。

- ・Q：「じゃらん」と連携され女性目線で展開されたとあるが、反響は如何だったのか？女性からの声は挙がって来たのか？

A：「じゃらん」設置店に伺うと、非常に評判が良く設置してもすぐに情報を持ち帰る方が多く好評。「川西じゃらん」に於いても、情報を得てお店訪問する女性が増えた。（雑貨店・ランチ）  
行政が作成するパンフレットとは違い若い世代に受け入れられた。

- ・Q：呉市に於いても本年度より新規事業5年計画で取り組みを開始したところであるが、行政主導で外部に発信して行こうとしているが、先行で開始された本市からアドバイスがあれば

A：昨年本格的に開始した都市では外に向けて発信していくのが大半であった。



川西市に於いても60周年事業のシティープロモーションとして展開したが、極論から言えば両方に向けて発信して行く事が必要ではないでしょうか。

・Q:今後の展開はどの様に考えておられるのか?

A:職員自らが広報マンとして常に回りの変化に目をやり、新しいことを発信出来る様に日常的に心掛ける事も重要かと思う。

・Q:ライフスタイルに合わせた広報の仕方、媒体にあった情報の出し方に於いての手応えは?

A:行政としては、あまねく市民に発信しなくてはどの思いがどうしても生じてしまうが、そうではなく、民間(じゃらん)から、ターゲットを絞り情報発信をした方が良いとのアドバイスを受ける。

手応えはまだ、まだ表れていないが今後ともしっかりと取り組んで参りたい。他都市でまねの出来ないプロモーション作りも必要かも。

#### 【呉市での展開の可能性】

・地方創生事業は全国的にも展開されているところだが、いかに早く取り組んで行く事がキーポイントになるかと思われる。

・川西市での視察を受け感じた事は、発信側が常にアンテナを張り巡らせ、情報をキャッチし柔軟に展開を行うことで、受け手側にも情報として入り易くなるのでは。

・本市に於いても今後5か年計画で事業展開を進めて行く中で、ターゲットを絞りどこに向けて発信していくのかと言う方向性をしっかりと示し、ソフトタッチの情報発信で、地元の方でも気づかないお宝を発掘しつつ、大きく外部(市外)に向けて展開して行くと共に、内部(市民)の方に郷土を誇りに思っ頂くシティープロモーションを展開・推進を行っていくべきかと思う。

## 三重 四日市市

### ■調査項目

女性の視点を生かした防災対策について

#### ・調査対応者

危機管理監 山下二三夫， 危機管理室副参事 蒔田 弘  
危機管理室主幹 田中 宏和， 自治会連合会事務局長 大瀧 あずさ

#### ・調査期日

平成28年5月20日午前9時30分～11時

#### ・〇〇市の概要

人口：305,534人  
世帯数：127,481世帯

#### ・調査目的

防災のための独自の取り組みと工夫

危機管理部門にかかる女性職員の配置数、過去の災害事例

避難所運営の手引きの作成にかかる人選、基準

女性の視点をどの様に反映させたか

女性の視点にたった内容はどのようなところか

#### ・調査内容

##### 【四日市市からの説明】

##### 1. 防災のための独自の取り組みと工夫

○地域防災の現場で活躍する女性を増やしていくため、女性リーダーの育成を目的とした防災減災女性セミナーを平成25年度から開催

○四日市市防災大学を同時に開催（平成17年度から開）

○危機管理部門に平成24年4月より女性職員を配置し、防災訓練、防災啓発等の担当

○過去の災害はS34年伊勢湾台風、S49年集中豪雨、H12東海豪雨  
近年では大災害なし

##### 2. 避難所運営の手引きについて

○手引きの作成の人選は防災大学の修了生、地域活動の実績のある女性センターの副館長、地域マネージャーなど、幅広い年齢で8名の選出

○手引きを利用して各地の避難所運営マニュアル作成

○女性の視点に立った内容は配慮が必要な人々のニーズを例示

具体的な備蓄の必要物品の例示、理解を深めるために紙面を使用  
地域防災活動でのチェックリストの作成

【質疑応答】

(質問)

市民の一人ひとり(全体)に防災の意識があるのか？

(応答)

高齢者が多い地域が助け合うことから防災について早くから取り組みを始めた

(質問)

女性の防災意識をどうやってたかめるのか？

(応答)

各地域のセンターの館長がそれぞれのコミュニティの中に入り、声掛けをする  
地域コーディネーターの連携を持ち、セミナーなどの呼びかけをする

セミナーを受けた女性リーダーを育て、そこから皆さん伝える

(質問)

防災リーダーをどの様にして育成しているのか？

(応答)

受講者を地区の推薦制で受けていくことで意識が高くなった

地区のアドバイザーとなる

【呉市での展開の可能性】

呉市の消防局主催の防災リーダー講習会を活用して、様々なグループに声をかけて講習会への参加を進める

女性だけのセミナーや講習会を開催するなどの工夫して、女性の防災リーダーの増員を図る